

# 2020年度 コーヒー寄付金報告書

申請事業名

## 視覚に苦手を持つ子どもの早期支援を実現する事業

～見逃されがちで大幅に支援が遅れる現状の改善モデル育成

### 【助成概要】

助成金額：¥ 80,000 -

助成物品一覧

(1) ランドルト環 視力表 5m ラミネート版	: ¥ 3,218-
(2) 視力表(ラミネート加工) 5m 小児用	: ¥ 2,968-
(3) SPP 標準色覚検査表 第3部 検診用	: ¥ 39,600-
(4) WAVES デジタル 検査&トレーニング [クラウド機能付ライセンス]	: ¥ 40,700-

### 【事業実施報告】

発達検査の中から色覚異常検査が必須ではなくなり、色覚異常による学習障害（読み書き障害・算数障害など）の発見が遅くなり、非常に就学状況が悪化し、その状況で支援を求める声が届くようになってきていると報告があります。実際にその報告と同様の経験をするようになっていきます。

また知的な課題などにより視力検査の困難など、発達障害児の視覚に関する状況の把握がなされないまま、支援が行われている状況が多くみられます。これは「目は見えている」というバイアスによる、支援者の偏った認知から視覚認知の支援が行われないことを意味しています。

これらの視覚に関する基本的評価が簡易かつ高精度に行える状況が望まれてきました。今回みえ市民活動ボランティアセンター／みえNPOネットワークセンターにご支援いただけたことにより、子どもの視覚認知に関して、より現場寄り実践的な評価が行えるようになりました。

具体的には支援物品(1)ランドルト環（一般的な視力検査【C】の形の開口部の向きを答える検査）及び(2)幼児用の視力検査表は、就学児で視力検査が難しかった子どもや初めて視力検査を受ける子どもが事前練習し、就学先で検査が実施できるように配慮が行えました。そして一般的な視力についての情報についても支援情報として取得できました。

支援物品(3)SPP 標準色覚検査表 第3部 検診用では色覚異常を持っていた（ほとんどは把握されていなかった）子どもを見つけることができました。色覚異常は読み書きでいえば、コントラストの低さ、背景色と文字色のコントラストなどに影響を受け、非常に文字が読みにくい。生活でいえば、皆が普通に経験するような視覚的経験がなされず、保護者、支援者が教えなければならないと認識されていないものが習得されていなかったりします。それらを早期に発見し、医療や専門機関と連携し、支援状況を改善することができた事例もあります。

支援物品(4)のWAVES デジタル 検査&トレーニング [クラウド機能付ライセンス]は最も活用頻度が少なかった

ものになります。この検査は大阪医科薬科大学LD センターで開発されたもので視覚認知の検査とトレーニングが行え、データがクラウドで蓄積されます。

保護者の同意や子どもへの検査による心理負荷のため、子どもが検査を受けられる状態であり、検査が必要と判断できる場合のみ実施します。当助成事業期間、トレーニングとしては多数の子どもが支援を受けました。しかし子LABで実践してきた評価でもあったため評価実施件数は0でした。それは子LABに新たな対象児いなかったためです。加えて、クラウド化、訪問支援による活用ライセンスの増加を狙いましたが、コロナ流行、支援実施や訪問支援の日程への影響が主な理由です。

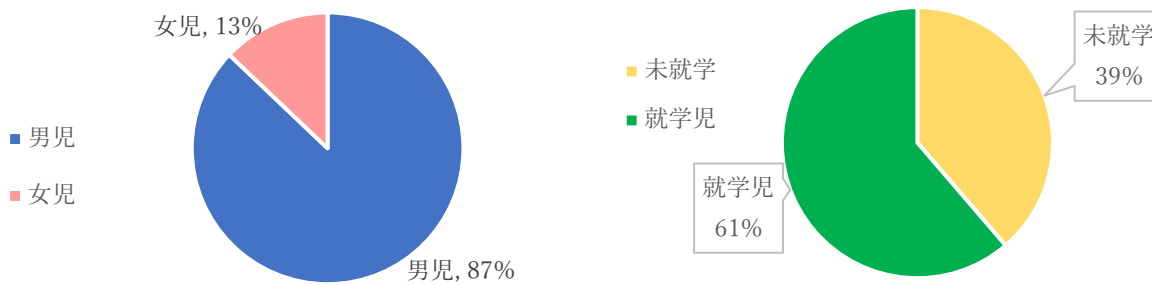
## 【実施データ】

### [SpotVisonScreener (日本財団助成物品) による視覚認知評価]

[1] 実施承諾 67 件

[2] 評価実施 62 件

[3] 男女比 男児 54 名:女児 8 名 [4] 未就学児:就学児=24 名:38 名

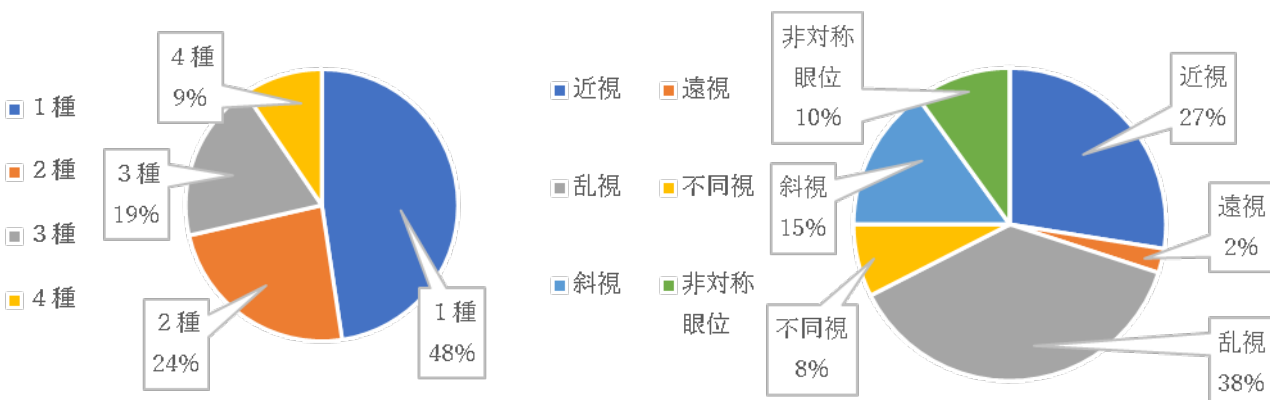


### [5] 色覚異常検知数

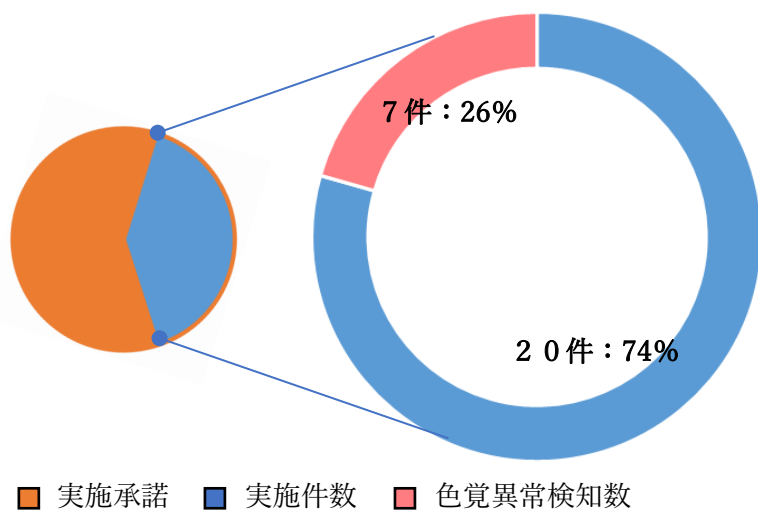
近視	遠視	乱視	不同視	斜視	非対称眼位	瞳孔不動
11	1	15	3	6	4	0

### [6] 視覚認知異常の重複数による分類

### [7] 色覚認知異常種別による分類



## [色覚異常検査実施状況]



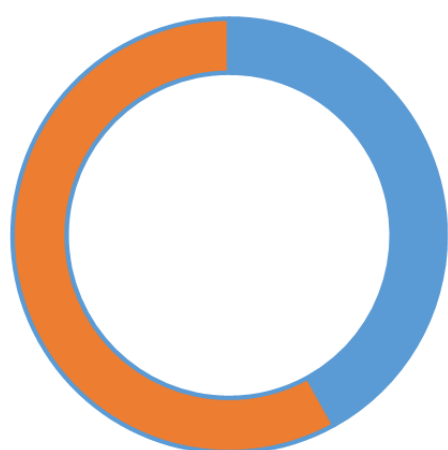
[1] 実施承諾	67 件
[2] 実施件数	27 件
[3] 異常検知数	7 件
[4] 異常検知割合	26%
[5] 医療機関の受診	2 件
[6] 要入学前検診色覚検査	7 件

## [視覚認知評価についての地域での取組へ]

上記の視覚認知評価に弱視児の実用読書視力チャートの活用なども含め、要検査児の抽出、必要な支援情報の取得に向け、地域の医療機関、障がい児通所支援事業者（児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援）、障がい児相談支援事業者への協力要請を行った。

※全施設への検査を含んだ情報提供は行ったが全施設に協力要請を行ってはいない

### [1] 実施協力施設



- ① 障害児通所支援 18 施設  
(津市の障害福祉施設 31 事業所 [2021 年9月現在])
- ② 医療機関 1 施設
- ③ 実際の検査件数 0 件

■ 協力件数  
■ 地域施設数

多くの協力承諾をいただき非常に感謝していますが、新型コロナウイルス流行により、施設訪問の日程調整、利用児の利用の不安定な実情が露呈してしまいました。そのため訪問での検査が行えていません。できたことは子LAB利用者の他施設訪問先への情報提供（保護者を介在して）のみとなっています。

## [今後の事業継続について]

今後の事業継続は、今回実施できなかった多施設連携、情報共有体制の構築をまず行っていきます。それが最終的

にな目標であり、それらが継続して存続することは非常に難しいことでもあります。それは民間事業者が個別に経済活動として子どもの支援を行っている側面があるためです。

そのため弊社理事長たちが事業所間や行政職員と共に立ち上げた「子どものことを考える会」への業務移行など、様々な方策を検討し、地域で子どもを支える体制づくりを模索していこうと考えています。

## [謝辞]

最後に子どもの視覚認知を評価し、適正な基礎情報の提供、支援の適正化に向けた事業について、ご支援を賜りました「みえ市民活動ボランティアセンター」 / 「みえNPOネットワークセンター」感謝を申し上げます。また今回ご協力いただける予定でございました施設様へも感謝を申し上げ、今後のご協力をお願いしたく存じます。